

「地域性を生かした活動を通しての絆づくり」

～三島交流事業による繋がり～

発表者 福岡市能古公民館【公立公民館】

館長 水本久利

主事 田中郁子

1 事業名

三島交流事業（公民館体育振興事業）

2 事業の目的

地域性を活かしたスポーツを楽しむことにより、スポーツを通し、住民の健康維持と交流を図る。

3 事業の実施主体

能古公民館

4 連携・協力機関・団体等

能古・玄界・小呂子ども会育成会，玄界公民館，小呂公民館

5 事業予算

41,500 円 —— 内訳 各島子ども会育成会：各 10,000 円
能古公民館：11,500 円

6 実施に至る経緯

住民の「小呂・玄界・能古の三島でソフトボールをしたらいいね！」の一言がきっかけで、三島交流事業が始まった。玄界や小呂の子どもたちは、“ソフトボール”をやったことがなかったため、“キックベースボール”から始め、その後ソフトボールを教え、交流が広がった。

以前は、各島の対抗試合で進めていたが、最近では三島混成のチーム編成にしてスポーツを楽しんでいる。

7 事業のねらい

西区の3つの島が、1年に1回集まり、交流・情報交換を通し、繋がりをひろげ、閉鎖的にならないようにする。

8 事業の内容

子どもたちのキックベースボール，ソフトボール，ドッジボール，海の運動会などを行っており，スポーツ大会後は，「島の特産品を持ち寄った懇親会」を行っている。



9 事業の成果

- ・ 子どもたちが、運動場、海や砂浜でのスポーツ交流を通して、「大人数での活動」、「はじめて会った人とチームを組む」などを体験し、楽しさ・おもいやり・つながり・見守りなどを感じ取ることができた。
- ・ それぞれの島単独で体験できないことを体験することができた。
- ・ 子どもの活動を通じて大人の繋がりが広がり、楽しい時間を過ごすことができていく。
- ・ 島同志の輪と繋がりが強くなった。
- ・ 内容を検討しながら、継続をしていくことに大切な意味を感じた。

10 今後の課題

- ・ 少子高齢化で、子どもの数が減ってきている中で、このような交流で人との繋がりを作っていくことは大きな財産になります。20年前から先輩方が築いてきた、この活動をこれから先も永く続けていく工夫をしていくこと。
- ・ 島の未来像を考えて、ひとつひとつ整理をしていくこと。

11 問い合わせ先

福岡市能古公民館（〒819-0012 福岡市西区能古 726-9）

TEL:092-881-0873 FAX:092-881-0331

e-mail:noko30@theia.ocn.ne.jp